

みんなの図書館

発行日 令和6年12月27日(金) (年4回発行)

第75号



発行者 木更津市立図書館
木更津市文京2-6-51
TEL 0438-22-3190
FAX 0438-22-7509

《秋のイベント報告①》

令和6年度児童文学講座

太郎さんと絵本のこと

講師：三浦太郎さん

開館95周年記念事業の第1弾として、絵本作家の三浦太郎さんをお迎えし、児童文学講座を開催しました。



三浦さんは乳幼児向けの絵本を数多く制作されており、海外で個展を開催するなど、国内外問わずグローバルに活躍されている方です。三浦さん作の『くっついた』や『あ・あ』は生後4か月を迎えた赤ちゃんに絵本をプレゼントする「ブックスタート」でも使用していたので、見たことがある方やお家にある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回は三浦さんによる講演会の様子をお届けします。

まず、三浦さんが絵本作家になる前のお話から始まりました。イラストレーター時代にイタリアのボローニャ国際絵本原画展に入選したことが絵本づくりを始めるきっかけとなり、最初に海外で絵本を出版されました。その後、日本でも絵本を出版しましたが、日本でのデビュー作となった『くっついた』は、実はお子さんとのエピソードがきっかけで作られたそうです。当時は子育てに苦手意識があった三浦さんですが、「娘とコミュニケーションをとる中で自分のほっぺと娘のほっぺをくっつけたらなかなか笑わない娘が笑った」とおっしゃっていました。その後もご自身の子育て経験をもとに子どもを意識した絵本づくりをしているとのこと。三浦さんとお子さんとのエピソードを話していると、参加者の中にも子育てを経験されている方が多かったのか、皆さん共感するように頷きながらお話を聞いていました。



後半になると、三浦さんによる絵本の読み聞かせがありました。『くっついた』を始め、『でんしゃがきました』や『みち』、さらに今年の7月に発行された新刊『うみへやまへ』も読んでいただきました。三浦さんの熱演に会場は大盛り上がり！参加者の皆さんも楽しそうな様子でした。

三浦さんの軽快なトークとともに絵本作家の仕事や絵本づくりの裏側を知ることができ、あっという間の90分でした。現在子育て中の方や、子どもと接する機会がある方はぜひ三浦さんが作られた絵本を手にとって読み聞かせしてみたいはいかがでしょうか。

子ども司書養成講座 めざせ!Kisa Librarian!



開館95周年記念事業の第2弾として、9月～11月にかけ、子ども司書養成講座「めざせ! Kisa Librarian!」を開講しました。Librarian(ライブラリアン)とは、司書のことです。この講座では、中学生～高校生を対象に、夏に行っている「一日図書館員体験」からさらに踏み込んで、様々な司書の仕事に挑戦してもらいました。今年度は毎週土曜日、全7回の講座に、中学生7名が参加し、子ども司書 Kisa Librarian として認定されました。



第1回ではオリエンテーションとして図書館の仕事全体や、本の分類について学びました。皆さんも目にしたことがある本の背ラベルには、図書館での本の居場所が書かれています。第2回ではそれをもとに、カウンターでの本の返却や、返却された本の状態確認からブックトラックへの運搬、所定の書架に納めるところまで一連の流れを経験しました。

第3回では紹介したい図書のPOPを作成しました。完成したPOPは図書館入口付近に掲示をし、ご覧になった方も多いかと思います。POPを見て図書を予約したという方も見られ、読書を広げる役目をしっかりと果たしてくれていました。



第4回ではレファレンスサービスの演習として、参考図書や郷土資料から情報を探する方法を学び、問題に取り組みました。普段司書が行うものと同様の演習ということで難しそうな様子でしたが、悩みながらも互いに協力して、分類をもとに様々な本から情報を探し出していました。

第5回では本のカバーかけと、汚損・破損した本の修理をしました。カウンターでの本の返却時、状態確認をして破れや汚れなどがあった時は職員が修理をしています。細かい作業でしたが、丁寧にやり遂げていました。



第6回ではおはなし会の役割や絵本の選び方、読み聞かせのポイントなどを学んだ後、読み聞かせを行う絵本を選んでお互いに読みあい練習をしました。第7回にはおはなし会として、練習した絵本の読み聞かせを行いました。また、第3回で作成したPOPの紹介、講座全体で学んだことを発表しました。たくさんの人の前で緊張もあったかと思いますが、学んだ成果をしっかり伝え合うことができました。



皆さんは、「読みたい！」と思った本が木更津市立図書館に無い時、どうしていらっしゃるでしょうか？書店等で探す？別の図書館まで足を運ぶ？それとも、残念だけれど諦める？……そんな時こそ、「相互貸借サービス」の出番です！

「相互貸借サービス」とは、一定の決まりに基づき、複数の図書館の間で、相互に資料の貸借をする仕組みのことです。千葉県内では、1977年に始まり、すでに47年が経とうとしています。このサービスを利用すると、当館に所蔵の無い資料でも、県内の他の図書館から借りて利用することができます。資料は、県内の図書館間を行き来している協力車に乗せられて当館に届くので、多少時間はかかりますが、無料で利用することができます。

相互貸借で、読めた！

ある時、利用者の方から、『日米会話手帳』を読みたい。」とのご依頼がありました。『日米会話手帳』は、1945年9月15日に科学教材社から出版された、戦後初のベストセラーです。何しろ、その年の暮れまでに360万部が売れたというのですから、驚異的です。

さて、当館は、79年前に刊行されたこの本を所蔵しておりません。そこでまずは、県立図書館の横断検索システムやカーリル等を使って、この本を所蔵している図書館が県内にあるかどうかを調べます。ところが、残念ながら、所蔵館を見つけることはできませんでした。そこで今度は、国立国会図書館の検索システムを利用します。

検索の結果、国立国会図書館、東京都立図書館ほか数館に、所蔵のあることが分かりました。けれども、他県の図書館から借りるとなると、無料というわけにはいかなくなります。さあ、困りました。何とかならないかしら……。

そこで、ふと、これまでの検索の途中で、何度となく目にしてきた書名が思い浮かびました。『日米会話手帳はなぜ売れたか』という、1995年に朝日新聞社から刊行されている本です。何か手掛かりが得られないかと、今度は、この本についての情報を調べます。すると、なんと、この本には、『日米会話手帳』の全文の影印版の収録がある(！)ということが分かりました。つまり、『日米会話手帳はなぜ売れたか』で、『日米会話手帳』の全文を見ていただけるということです。

『日米会話手帳はなぜ売れたか』も、当館には所蔵がありませんでしたが、県内に2館、所蔵している館がありました。こうして、「相互貸借サービス」のお陰で、『日米会話手帳はなぜ売れたか』を無事利用者の方にお貸しすることができ、それによって、『日米会話手帳』の全文を見ていただくことができました！

ちょっと、本の話

ちなみに、『日米会話手帳』は、手のひらサイズ、全32頁の簡単な英会話の本です。特筆すべきは、そのカタカナ表記。2頁の「どうしました？／What's the matter? ウアツ ツァ マタ」、9頁の「タマネギ／onion アニヤン」等、いまなら「ホワッツ ザ マター」、「オニオン」とそれぞれ表記するところではないでしょうか。けれども、「ウアツ ツァ マタ」、「アニヤン」のほうが、よほど本来の英語の発音に近い……なんとなしやかな発音でしょう！英会話力に悩む現代の我々は、戦後をたくましく生きた先達のしなやかさから、もう一度、学びなおす必要があるかもしれません。



雑誌と図書のリサイクルフェアを開催しました！

令和4年に発行された雑誌の中で図書館での保存年限が過ぎたものや、リサイクルフェアのためにお持ちいただいた図書などの配布を行いました。昨年度に引き続き雑誌の配布開始日を4日に分けて実施し、全体で雑誌付録を含む3,265点が配布されました。



冬の図書館行事予定



○第24回れきおんミニコンサート 「冬景色」「白鳥の歌」など、冬を彩る童謡をお楽しみください♪

1/19(日) 15:00～ (1時間程度) テーマ「童謡で楽しむ冬」

○オープンハウス型説明会 吾妻公園文化芸術施設に関する、設計担当者による説明会を実施します。

2/1(土) 9:00～12:00

○第22回大人のためのおはなし会 素話で、おはなしの世界を楽しんでみませんか？

2/16(日) 14:30～ (10歳以上対象)

○蔵書点検 所蔵する本の調査・点検を行います。

2/19(水)～28(金) ※期間中、図書館休館となります

○令和6年度文芸講演会「小説をどうやって生み出すか？」 講師：桜庭一樹さん

ご自身と図書館との関わりや、小説を書く際に何を念頭に置くかなど作家活動についてお話いただきます！

3/8(土) 14:00～16:00 申込受付は2/1～です。1月中旬以降、ポスターなどでお知らせします。

それぞれ詳しくは、今後図書館ホームページや、館内チラシなどでお知らせしますので、そちらをご確認ください。

ある日の 一コマ

師走のある日のこと。時折参考調査室にお見えになる利用者の方から、一つ二つ、ご質問を頂いたので、極簡単なご案内をして差し上げました。その後、カウンターに戻り、しばらくしてからふと顔を上げると、その方が一枚のメモ用紙をずっと差し出されました。受け取って、その紙に目を落とすと、なんとそこには、俳句が一首。達筆な美しい文字で、したためてあるではありませんか。
季語は、「冬ぬくし」。私の拙いご案内に対する、温かい感謝の気持ちを感じました。お陰様で私の心も、ふうわりと温かさに包まれました。



開館95周年記念 ～木更津の絵葉書をご紹介します③～



木更津君津橋より富士山を望む

君津橋から矢那川の河口に向かって撮影されたもので、大正～昭和初期頃のものでしょうか。君津橋は現在の證誠寺橋で、新田橋などとも呼ばれていましたが、昭和12年には木の橋から架け替えられ永久橋になったそうです。写真右奥には證誠寺が見えます。

今現在、辺りの様子はもちろん異なりますが、橋から見るゆったり曲がる矢那川と證誠寺は、変わらず見ることができます。

編集後記

開館95周年ということで普段に増して様々な事業があり、賑いのあるあつというまの一年でした。(N)
何かと気ぜわしい師走。カピバラが、ゆず湯にゆったりとつかっている新聞記事を見て、我が家もあわててゆず風呂にしました。いいお湯でした！(ヒロ)

年末年始はいつも食べすぎてしまうので、年が明けたら運動したいと思います……。 (まな)